

2018年（平成30年） 10月26日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

10/11~10/17のNYMEX・WTIは、69.75~71.92ドルの範囲で推移した。

10月18日は、前日の米国エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で原油在庫の市場予想を大きく上回る4週間連続の積み増しの報告と米国株式の下落を受け続落、9月13日以来の安値となった。ただ、引き続き、イラン原油供給懸念やサウジによる記者殺害疑惑も意識されており、下げ幅は限られた。11月限終値は前日比1.10ドル安の68.65ドルだった。

週末19日は、前日の反動買いが入り、中国の9月原油処理量が日量1249万バレルと記録的高水準に達したとの報道、さらに、ドル安・ユーロ高に伴う割安感も出て、3日振りに反発した。ただ、ベーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は873基(前週比4基増)と2週連続増加の発表が上値を抑えた。11月限終値は前日比0.47ドル高の69.12ドル。

週明け22日は、イラン経済制裁期限が近づく中、サウジの記者殺害疑惑による供給懸念から、わずかに上昇した。ただ同日、サウジのファリハ・エネルギー相はタス通信にサウジは政治と石油政策を分離しており石油危機時のような禁輸措置はしないと明言、原油生産を現行日量1070万バレルから同1100万バレルに引き上げ、原油生産能力同1200万バレルを維持すると発言し上げ幅を抑えた。11月限終値は前週末比0.05ドル高の69.17ドル。

23日は、世界経済の先行き不安による世界的な株価下落、また、翌日のEIA米国原油在庫週報の積み増し予想、さらに、リアドで開催中の未来投資フォーラムでファリハ・エネルギー相が、サウジの増産を重ねて確認、原油市場は良好

な状況にあり、市場安定に向けた産油国協調の延長を期待すると述べたことへの安心感から大幅反落、8月20日以来2ヶ月ぶりの安値を付けた。この日から中心限月の12月限終値は前日比2.93ドル安の66.43ドル。

24日は、EIA米国在庫週報で、原油は5週連続の積み増しがあったものの、ガソリン・中間溜分は大幅な取り崩しの報告があり、前日安値の反動外もあり、反発した。12月限終値は前日比0.39ドル高の66.82ドル。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週79.20~80.40ドルの範囲で推移した。10月18日78.70ドル、19日78.10ドル、22日78.90ドル、23日78.20ドル、24日75.70ドルで推移した。

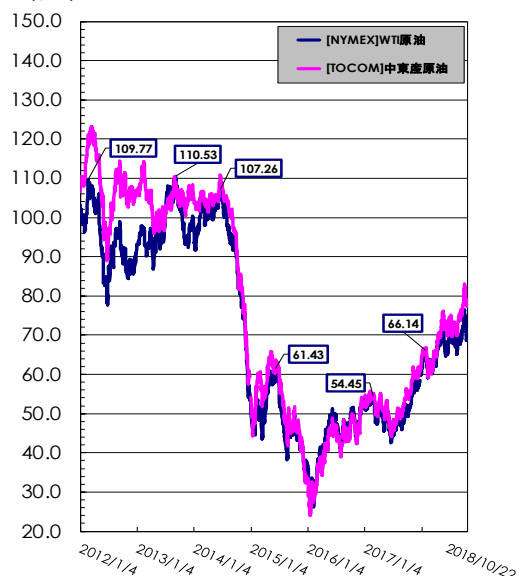
為替は、前週111.89~112.41円の範囲で推移した。10月18日112.70円、19日112.36円、22日112.49円、23日112.77円、24日112.47ドルで推移した。

主要元売会社の10月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・ともに全社2.5円の値下げとなった。原油価格は大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油調達コストは大きく値下がりとなった。

そのような中で、10月22日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.4円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油は同10円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに、8週連続の値上がりだった。この週(10月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格はガソリン・軽油が2.0~2.5円、灯油は全社2.5円の値上げだった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/14 ~ 10/20	2,922 ▲ 242	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	74.6 ▲ 6.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	10/20	12,421 ▲ 122	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	10/22	77.89 ▼ -0.76	▲ 22.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	10/22	69.17 ▼ -2.61	▲ 17.3
	原油CIF単価 (\$/bbl)	9月下旬	75.86 ▼ -0.22	▲ 24.35
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	53,195 ▼ -15	▲ 17,722
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.48 ▼ -0.30	▼ -2.00
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/22	113.49 ▼ -0.46	▲ 1.40

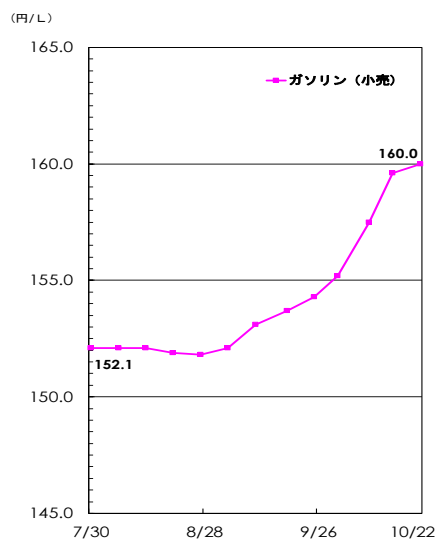
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/14 ~ 10/20	959 ▲ 34	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	837 ▼ -26	▼ -	
	輸出	"	34 ▲ 34	▲ -	
	在庫	10/20	1,602 ▲ 89	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/16 ~ 10/22	73.3 ▼ -2.1	▲ 19.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/16 ~ 10/22	70.8 ▼ -2.8	▲ 16.3
		(TOCOM/中部)	10/22	72.2 ▼ -1.3	▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/22	160.0 ▲ 0.4	▲ 24.4	

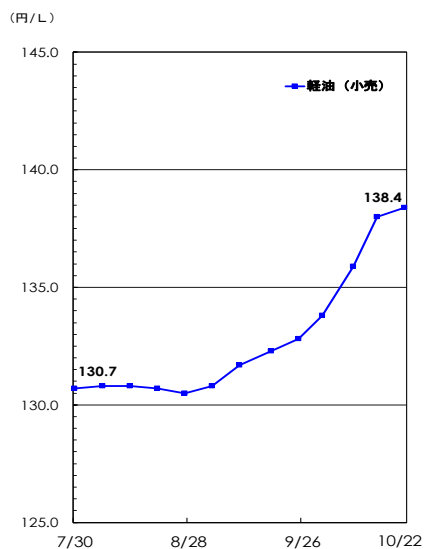
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

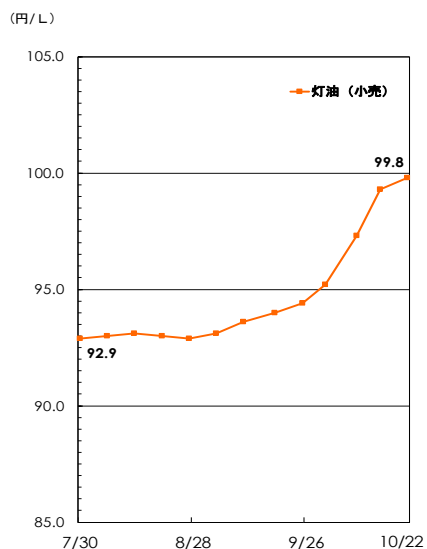
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/14 ~ 10/20	641 ▼ -9	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	627 ▲ 24	▲ -	
	輸出	"	131 ▲ 130	▼ -	
	在庫	10/20	1,433 ▼ -117	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/16 ~ 10/22	75.4 ▼ -1.3	▲ 22.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/16 ~ 10/22	74.4 ▼ -0.5	▲ 24.2
		(TOCOM/中部)	10/22	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/22	138.4 ▲ 0.4	▲ 24.6	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/14 ~ 10/20	133 ▼ -13	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	81 ▼ -27	▼ -	
	輸出	"	74 ▲ 25	▲ -	
	在庫	10/20	2,567 ▼ -22	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/16 ~ 10/22	74.8 ▼ -1.7	▲ 19.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/16 ~ 10/22	74.1 ▼ -1.2	▲ 19.0
		(TOCOM/中部)	10/22	75.4 ▼ -0.6	▲ 19.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/22	99.8 ▲ 0.5	▲ 21.5	



■ 関連情報

1 海外/原油

10月24日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫は前週比630万バレル増と、市場予想(同370万バレル増)を大きく上回り5週連続で積み増しになったものの、ガソリン・中間溜分の在庫は480万バレル減・230万バレル減と予想を上回る取り崩しがあったこと、前日安値の反動買い・安値拾いの買いが広がったことで反発した。12月限終値は前日比0.39ドル高の66.82ドル、1月限の終値は前日比0.34ドル高の66.96ドルだった。

EIAによると、10月22日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.8セント値下がりの1ガロン2.841ドル(85.1円/㍓)、ディーゼルは前週比1.4セント値下がりの3.380ドル(101.2円/㍓)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは9週ぶりの値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年10月14日～10月20日に休止したトッパー能力は45.3万バレル/日で、前週に対して28.9万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は292.2万klと、前週に比べ24.2万kl増加。前年に対しては24.9万klの減少。トッパー稼働率は74.6%と前週に対して6.2ポイントの増加、前年に対しては6.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.7%増、ジェット/21.7%減、灯油/9.1%減、軽油/1.5%減、A重油/27.8%増、C重油/45.3%増。今週のC重油の輸入は0.3万kl(前週比0.2万kl減)。軽油の輸出は13.1万kl(前週比13.0万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は83.7万 kl(対前週3.0%減)と前週比で2週連続で減少となり、7週連続で100万klを下回った。ジェット9.8万

kl(対前週156.6%増)、灯油8.1万kl(対前週24.6%減)、軽油62.7万kl(対前週4.0%増)、A重油19.6万kl(対前週55.6%増)、C重油17.5万kl(対前週28.8%増)。

(単位：千kl)

	今週 (10/14～10/20)	前週 (10/7～10/13)	前週比
ガソリン	837	863	▼ -26 (-3%)
ジェット燃料	98	38	▲ 60 (158%)
灯油	81	108	▼ -27 (-25%)
軽油	627	603	▲ 24 (4%)
A重油	196	126	▲ 70 (56%)
C重油	175	136	▲ 39 (29%)
合計	2,014	1,874	▲ 140 (7%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月20日時点の在庫は、ジェット、灯油、軽油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油、A重油が取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは160.2万kl、前週差8.9万kl増。前年に対しては9.3万kl少ない。

灯油は256.7万kl、前週差2.2万kl減。前年に対しては8.6万kl少ない。

軽油は143.3万kl、前週差11.7万kl減。前年に対しては2.5万kl多い。

A重油は68.9万kl、前週差3.0万kl増。前年に対しては2.7万kl少ない。

C重油は210.6万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては5.9万kl多い。

(単位：千kl)

	今週 (10/20)	前週 (10/13)	前週比
ガソリン	1,602	1,513	▲ 89 (6%)
ジェット燃料	927	964	▼ -37 (-4%)
灯油	2,567	2,589	▼ -22 (-1%)
軽油	1,433	1,550	▼ -117 (-8%)
A重油	689	659	▲ 30 (5%)
C重油	2,106	2,060	▲ 46 (2%)
合計	9,324	9,335	▼ -11 (-0.1%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月16日から10月22日の原油価格は、引き続き、前週対比で値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、同期間、ガソリン126～128円台で大きく値下がり、軽油75～76円台で大きく値下がり、灯油74～76円台で大きく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン129～130円台でほぼ横ばい、軽油77～78円台で値下がり後わずかに反

発、灯油73～74円台で値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン122～126円台で大きく値下がり、軽油74円台で横ばい、灯油73～75円台で値上がり後大きく値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、全社1.5円の値下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、軽油の海上取引でわずかに値上がりした以外は、全油種・全取引で下がりした。

10月第5週(10月25日～10月31日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月16日～10月22日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.1円の値下がり、灯油も1.7円の値下がり、軽油も1.3円の値下りだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.0円の値下がり、灯油も1.4円の値下がり、軽油は0.3円の値上がりだった。

先物価格は、ガソリンが2.8円の値下がり、灯油も1.2円の値下がり、軽油も0.5円の値下がりだった。

原油価格は大きく値下がりし、為替も円高で、原油コストは大きく値下がりした。

10月第5週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも1.5円の値下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (10/16 ~ 10/22)	前週 (10/9 ~ 10/15)	前週比
レギュラー	73.3	75.4	▼ -2.1
灯油	74.8	76.5	▼ -1.7
軽油	75.4	76.7	▼ -1.3

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (10/16 ~ 10/22)	前週 (10/9 ~ 10/15)	前週比
レギュラー	70.8	73.6	▼ -2.8
灯油	74.1	75.3	▼ -1.2
軽油	74.4	74.9	▼ -0.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (10/16～10/22実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -2.1	▼ -2.8	▼ -2.4
灯油	▼ -1.7	▼ -1.2	▼ -1.4
軽油	▼ -1.3	▼ -0.5	▼ -0.9
A重油	▼ -1.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月22日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.4円高の160.0円、軽油も同0.4円高の138.4円、灯油は同0.5円高の99.8円(18%ベースでは10円高の1,797円)だった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油も8週連続の値上がりで、ガソリンは3年11ヶ月ぶりの高値水準だった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは34道府県、横ばいは2県で、値下がり11道府県だった。全国最安値は、埼玉県の155.3円(前週比0.3円高)、次が千葉県の156.1円(同0.3円高)、最高値は長崎県の168.8円(同1.3円高)で、あった。最も値上がりしたのは、2.2円高の佐賀県(162.9円)、横ばいは長野県と三重県だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油とも、1.5円の値下げとなった。今週は、原油価格が大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは値下がりした。次週(10月29日)のガソリン・灯油の小売価格は、値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/22)	前週 (10/15)	前週比	直近高値
レギュラー	160.0	159.6	▲ 0.4	08/8/4 185.1
灯油	99.8	99.3	▲ 0.5	08/8/11 132.1
軽油	138.4	138.0	▲ 0.4	08/8/4 167.4

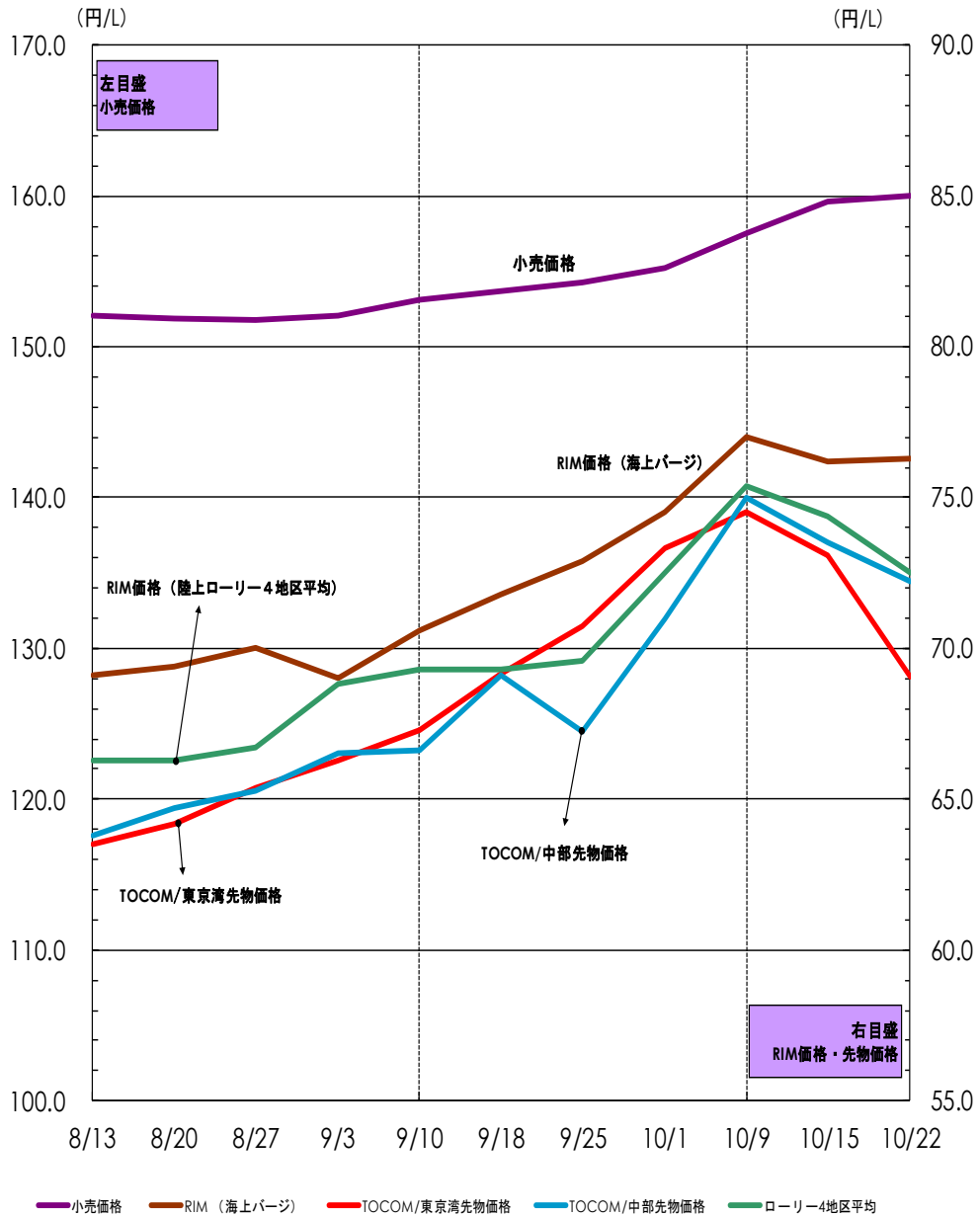
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/8/13 ~ 2018/10/22)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回 (2018第29号) の公表は、11/2 (金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(平成30年3月末現在) は、7月31日 (火) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。